

研修会報告

令和6年8月19日

文責：仙台市立病院 臨床検査科 古川 楓

研修会テーマ「令和5年度 宮臨技精度管理設問から考える尿沈渣と病態」

開催日時 令和6年8月10日 13:30～15:00

会場 Zoom ウェビナーを用いた Web 開催

司会 仙台市立病院 臨床検査科 白井 竜二

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者 24名 入会申請中会員0名 非会員0名 賛助会員0名 学生0名
合計 24名

講演1 13:30～14:10

「令和5年度 宮臨技精度管理設問から考える尿沈渣と病態」

東北医科薬科大学病院 検査部 阿部 成晃 技師

講演2 14:15～15:00

「尿沈渣検査で病気が分かる？～尿沈渣からの病態推定～」

東北医科薬科大学病院 検査部 奥 明日香 技師

内容

今回の研修会は「令和5年度 宮臨技精度管理設問から考える尿沈渣と病態」と題し、尿沈渣中に出現する成分とそこから推測される病態について2名の検査技師に講演いただいた。

講演1では昨年度出題した設問の解説を中心に、類似成分の鑑別点や関連する病態について講演いただいた。精度管理調査で出題された成分は、日常業務で遭遇する頻度が高いため、鑑別と病態の理解はより重要である。一つの沈渣成分から推定される病態と付随するその他の検査データ、臨床背景などを整理して解説いただいた。

講演2では5つの症例を提示していただき、視聴者参加型の問題形式で尿沈渣と病態について講演いただいた。尿沈渣検査では出現成分のみに目を向けてしまうことが多いが、患者背景やラボデータを踏まえて鏡検することで、病態への理解が深まり、より意義の高い検査結果の報告に繋がることが述べられていた。また質疑応答では活発に議論が交わされ、施設間で情報共有する貴重な機会となった。

今回の研修会は過去に行われたアンケート結果で多くの要望をいただいていた、尿沈渣と疾患をテーマに開催し、24名の方にご参加いただいた。今後もアンケート等を活用し、よりニーズに沿った研修会を企画していきたいと考える。